

## I 学校の概要（立地状況等含む）

本校は、阿久根市南部の海岸線沿いに位置しており、市内小・中学校の中でも最も海に近く、海岸からの距離も150mである。海拔も2mと低く、想定されている津波の高さは4mであることから、津波被害に対する危機意識を常に高めておく必要がある。

## II 避難訓練の取組の概要

## 1 取組の内容、方法等

- (1) 津波を伴う地震発生を想定し、予告無しも含めて年に複数回、複数箇所への避難訓練を実施している。
- (2) 混乱することなく、いかに早く高台に逃げるかについて毎年検討を重ね、最善の避難方法を模索している。

## 2 避難訓練の内容とねらい

- (1) 地震が起きた場合は、指示に従って冷静に行動し、安全な避難ができるようにするとともに、津波が起きた場合の避難の仕方や避難場所の確認をすることをねらいとしている。
- (2) [地震発生]→教室で机下へ一次避難→[津波警報発令]→担任の指示の下、校庭を経由して近くの高台へ二次避難といった内容で実施している。

## 3 避難訓練の実施までに工夫したこと

- (1) 津波を伴う地震発生時の避難場所について複数箇所を設定した。裏山が崩れた場合も想定し、学校の裏山の他に、近くの高台も避難場所に加えた。
- (2) 「釜石の奇跡」を参考に、実効性のある一刻も早い迅速な避難（①想定を信じない、②より高い場所へ、③率先避難者たれ）を目指し、校庭への全体整列を省き、かけ足で避難した。（出てきた学年順に人数を確認し、待たずに避難）
- (3) 常時冷静な判断や行動ができるよう、予告無しも含め、年間に複数回の訓練を実施した。

## 4 避難訓練の状況

## (1) 地震・津波を想定した避難訓練の実施

- |        |                         |
|--------|-------------------------|
| ア 開催期日 | 令和3年10月19日<br>令和4年1月28日 |
| イ 参加者  | 全児童、全職員                 |
| ウ 参観者  | 保護者（PTA会長）<br>地域住民      |

## (2) 避難訓練の実際



【10月の訓練の様子（避難場所A）】



【1月の訓練の様子（避難場所B）】

## 5 取組の成果と課題

## (1) 成果

- ア 校庭への全体整列を省略したことにより、避難に要する時間の大幅な短縮につながった。
- イ 避難場所を複数設定したことにより、避難先の選択肢が増え、状況に応じた避難が可能となった。
- ウ 児童がいち早く逃げる姿勢を示すことにより、地域にも危険を伝え、避難を促すことができるようになる。
- エ 複数回実施したことにより、児童や職員の防災に対する危機意識が高まった。

## (2) 課題

- ア 避難場所Aは、大きな地震の際に崩れる危険性がある。避難場所Bは、避難の際に国道3号線や鉄道の線路を横切る必要がある。避難場所としての妥当性を、公的な機関等に検証してもらう必要がある。
- イ 選定した避難場所は、時期によっては草が伸びて避難を妨げる可能性があり、定期的な確認や除草が必要である。